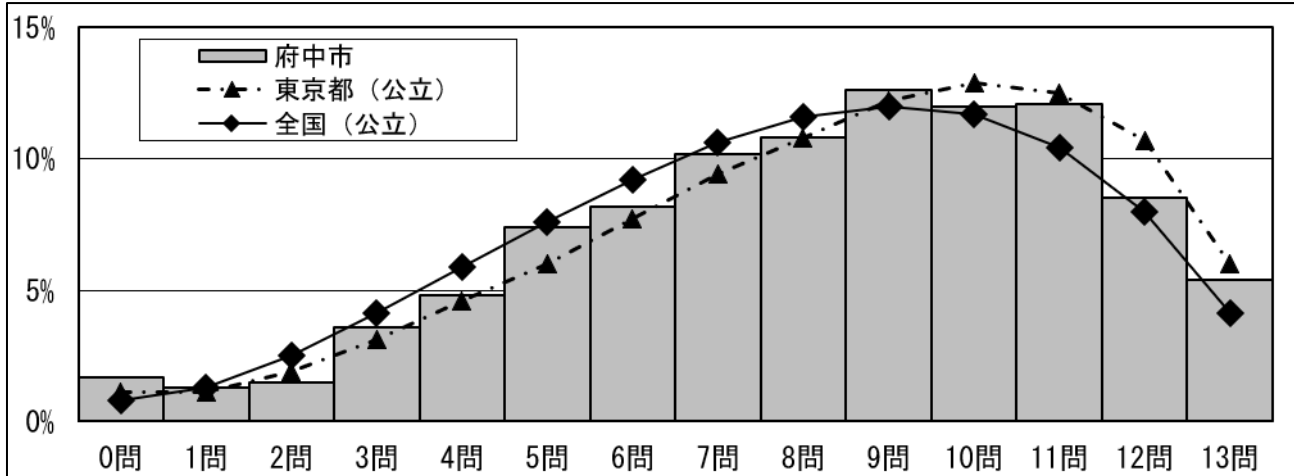


小学校国語

小学校	平均 正答率 (%)	中央値 13問中	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等			R7小学校	平均 正答率
国語			言葉	情報の扱い	話・聞	書く	読む	国語	
府中市	63	9	69.5	54.1	67.8	48.8	64.7	府中市	70
東京都	65	9	70.4	56.7	70	50.4	68.8	東京都	70
全国	60.9	8	66.8	52.3	65.8	45.7	65.9	全国	66.8



【主な設問別結果】

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	知・技			思・判・表等			正答率 (%)			無回答率 (%)		
			言語	情報	文化	話・聞	書く	読む	府中市	東京都	全国	府中市	東京都	全国
1二 (1)	【動画の一部】の工夫として適切なものを選択する	資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫することができるかどうかをみる				○			64.6	64.9	60.2	1.4	0.9	0.6
3三 (1)	【話し合いの様子の一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	目的に応じて、必要な情報を見付けることができるかどうかをみる						○	57.2	62.2	55.5	6.6	4.4	3.3
3三 (2)	【文章】を読んで考えたことを、自分の経験と結び付けてまとめて書く	文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめることができるかどうかをみる						○	72.2	75.4	76.4	19.7	17.8	15.6

【教科に関する調査から分かったこと】()は問題番号

○ 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫すること(問1二(1))について、平均正答率は全国よりも高く、都と同程度となっている。目的や相手を意識しながら、資料と説明内容を関連付けて考える力は概ね身に付いていると考えられる。

△ 目的に応じて、必要な情報を見付けること(問3三(1))について、平均正答率は全国よりも高いが都よりも低い。また、文章を読んで理解したことに基づいて、自分の考えをまとめること(問3三(2))は、正答率は比較的高いものの、無回答率が都・全国と比較して高く、必要な情報を根拠として自分の考えを表現することができるように指導していくことが大切である。

【質問紙調査から分かったこと】

「国語の授業で、文章などを引用して、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫して文章を書いていましたか」について、肯定的な回答をしている児童ほど平均正答率が高い傾向にある。

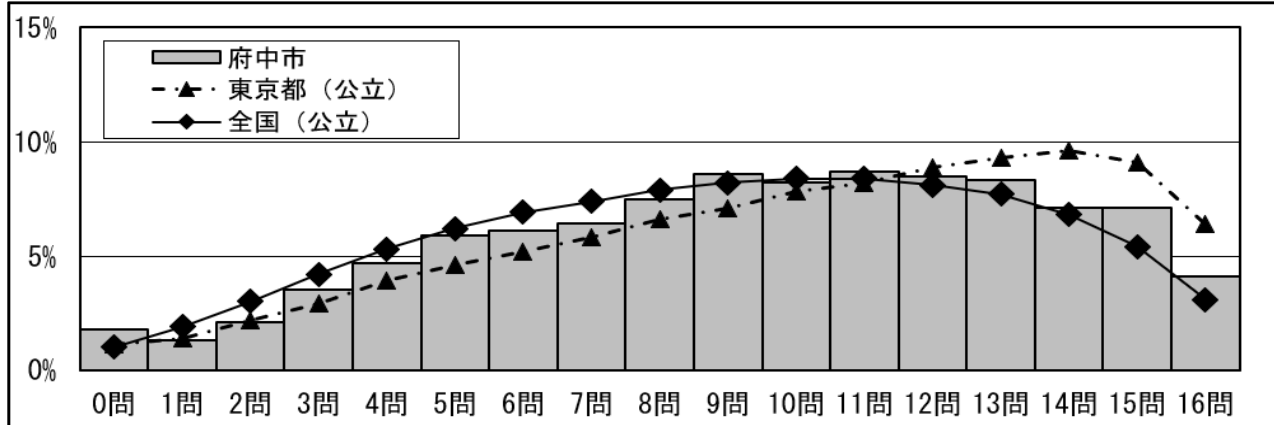
	市・児童数の 割合 (%)	市・国語 平均正答率 (%)
している	32.1	71.5
どちらかといえば、している	45.8	62.8
どちらかといえば、していない	16.5	54.1
していない	4.4	40.2

文章から、目的に応じて必要な情報を取り出し、それらを関連付けながら自分の考えを形成し、根拠を明確にして表現する力を育成することが重要である。授業では、読む目的や課題を学習者自身で捉えるなど、主体的に学習に取り組むことができるよう学習活動を設定する。また、文章中の叙述や資料を根拠として引用し、その内容と自分の考えとの関係を明確にしなが説明する活動を取り入れることが重要である。さらに、他者との交流を通して考えを比較・検討し、自分の考えを再構成して表現する機会を設けることを通して、自分の言葉でまとめられるよう段階的に指導することが効果的である。

小学校算数

小学校 算数	平均 正答率 (%)	中央値	学習指導要領の領域別平均正答率(%)				
		16問中	数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用
府中市	59	10	63.3	60.6	79.7	44.3	50.4
東京都	63	11	68	63.4	82.9	49.9	53.9
全国	56.4	9	61.1	55.3	78.1	41.1	48.6

R7小学校 算数	平均 正答率 (%)
府中市	62
東京都	64
全国	58



【主な設問別結果】

問題 番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					正答率(%)			無解答率(%)		
			数と計算	図形	測定	変化と関係	データの活用	府中市	東京都	全国	府中市	東京都	全国
1 (1)	一辺が8cmの立方体の体積を求める式を書く	立方体の体積の計算による求め方について理解しているかどうかをみる		○				75.9	76.9	72.7	1.3	1.4	1.3
2 (4)	赤いテープの長さが、白いテープの長さの1.5倍になっている図を二つ選ぶ	基準量、比較量、割合の関係が正しく表されている図を選ぶことができるかどうかをみる	○			○		37.7	46.0	34.2	2.8	1.9	1.5
3 (4)	5/3を表す目盛りが示された数直線上で、1を表す目盛りを選ぶ	単位分数の個数に着目し、数直線上の1を表す目盛りを捉えることができるかどうかをみる	○					68.3	76.1	68.1	4.5	3.2	2.7

【教科に関する調査から分かったこと】()は問題番号

- 立方体の体積の計算による求め方(問1(1))について、平均正答率は都と同程度であり、全国よりも高い。数量や図形の性質に着目して考える力は概ね身に付いていると考えられる。
- △割合の関係が正しくあらわされている図を選ぶこと(問2(4))や、単位分数の個数に着目し、数直線上の1をあらわす目盛りを捉えること(問3(4))について、平均正答率は全国と同程度もしくは高いが、都よりも低い。数量の関係を適切に捉えたり、図や式と関連付けて考察したりすることができるようにしていく必要がある。

【質問紙調査から分かったこと】

「算数の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか」について、肯定的な回答をしている児童ほど平均正答率が高い傾向にある。

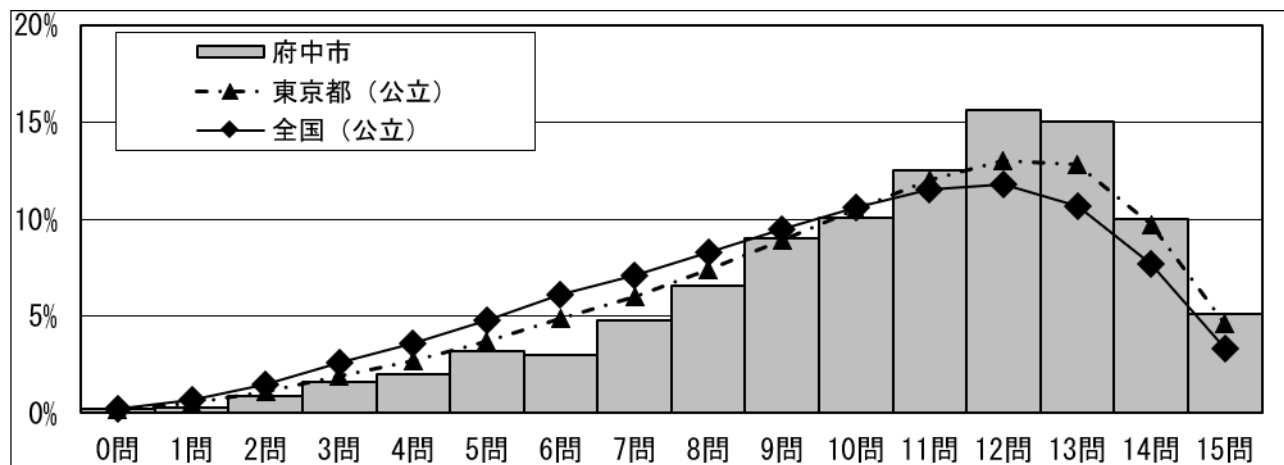
	市・児童数の割合(%)	市・国語平均正答率(%)
当てはまる	24.5	69.5
どちらかといえば、当てはまる	35.7	64.4
どちらかといえば、当てはまらない	26.5	60.9
当てはまらない	12.4	51.9

数量や図、式などを関連付け、問題場面を正しく捉えて、考え方を筋道立てて説明する力を育成することが重要である。授業では、割合や単位量当たりの大きさなどの数量関係について、テープ図や数直線、表などを活用して視覚的に捉えられるようにすることが必要である。また、体積や分数の学習においては、公式や処理の仕方を覚えるだけでなく、単位の意味や数量の関係について具体物や図を用いて理解を深めることが重要である。さらに、答えを求めるだけでなく、どのように考えたのか説明し合い、友達の考えと比較・検討することで、確かな理解へとつなげる指導が重要である。

中学校国語

中学校	平均 正答率 (%)	中央値 15問中	知識及び技能		思考力、判断力、表現力等		
国語			言葉	情報の扱い	話・聞	書く	読む
府中市	70	11	68.3	78.5	70.7	73.7	67.2
東京都	68	11	66.2	74.6	68.1	70.5	64.2
全国	63.9	10	63	70.4	63.9	67.4	59.7

R7中学校	平均 正答率 (%)
国語	
府中市	61
東京都	57
全国	54.3



【主な設問別結果】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	知・技			思・判・表等			正答率 (%)			無回答率 (%)		
			言 語	情 報	文 化	話・ 聞	書 く	読 む	府中 市	東京 都	全国	府中 市	東京 都	全国
2三	話合いを受けて整理したタブレット端末の画面を説明したものととして適切なものを選択する	情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うことができるかどうかをみる		○					78.5	74.6	70.4	0.2	0.4	0.4
3四	書いた文章について、交流を基にして、「この文章のよい点や改善点」と「今後随筆を書くときに生かしたいこと」を書く	表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすことができるかどうかをみる					○		53.9	48.8	45.0	6.1	8.6	10.7
4二	国語辞典を参考にして、「ほうふつとさせる」と同じような内容を表す別の表現を文章中から抜き出す	語句の辞書的な意味を踏まえ、文脈上の意味を捉えることができるかどうかをみる	○						39.9	39.2	35.2	14.2	16.7	19.8

【教科に関する調査から分かったこと】（ ）は問題番号

- 情報と情報との関係の様々な表し方を理解し使うこと（問2三）や、表現の工夫とその効果について、読み手からの助言を踏まえ、よい点や改善点を見いだすこと（問3四）について、平均正答率は都・全国よりも高い。話合いや文章作成の過程において、情報を整理したり相手の意見を踏まえて考えを深めたりする力が身に付いていると考えられる。
- △ 語句の意味を踏まえ、同じような意味をもつ別の語句を捉えること（問4二）について、平均正答率は全国よりも高く、都と同程度である。語句の意味を理解するだけでなく、文章の中での使われ方や前後の文脈との関係を基に意味を捉えることが求められる。

【質問紙調査から分かったこと】

「国語の授業で、文章を書いた後に、表現の工夫とその効果などについて、読み手からの助言などを踏まえ、自分の文章のよい点や改善点を見いだしていましたか」について、肯定的な回答をしている生徒ほど平均正答率が高い傾向にある。

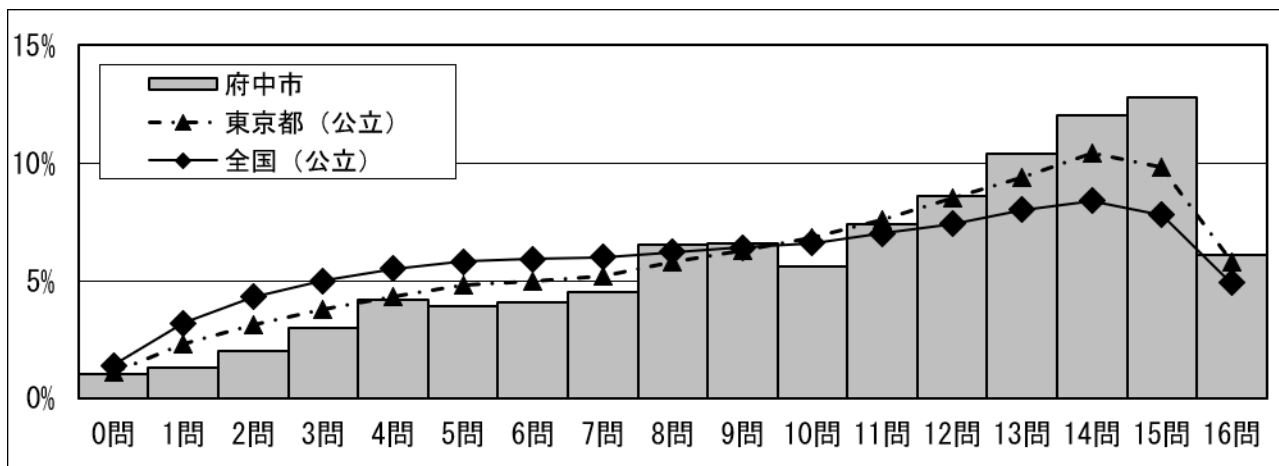
	市・生徒数の 割合 (%)	市・国語 平均正答率 (%)
している	31.7	75.1
どちらかといえば、 している	47.2	70.6
どちらかといえば、 していない	15.5	65.0
していない	4.6	56.5

情報と情報との関係を捉え、目的に応じて整理するとともに、文脈に即して語句の意味を考える力を育成することが重要である。授業では、文章中の語句や叙述に着目し、その役割や意味を他の語句との関係から考察する活動を充実させる必要がある。また、書いた文章を互いに読み合い、助言を基に表現の工夫や効果を振り返り、自らの考えや表現を見直す学習活動を通して、表現する力を高める指導が効果的である。

中学校数学

中学校 数学	平均 正答率 (%)	中央値 16問中	学習指導要領の領域別平均正答率(%)			
			数と式	図形	関数	データの活用
府中市	66	11	73.6	61.7	62.5	61.9
東京都	62	11	71	56.9	59.2	57.7
全国	57	10	67.8	48.7	54.8	53.5

R7中学校 数学	平均 正答率 (%)
府中市	57
東京都	53
全国	48.3



【主な設問別結果】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域				正答率(%)			無解答率(%)		
			数と式	図形	関数	データの活用	府中市	東京都	全国	府中市	東京都	全国
7(2)	データ量が1000MBになるときの動画の時間がおよそ何秒になるかを求める方法を説明する	数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明することができるかをみる			○		44.5	40.3	33.9	29.9	33.0	39.6
8(1)	$\angle AOB$ の大きさが a° のとき、 $\angle POB$ の大きさを a を用いた式で書く	具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えることができるかをみる		○			75.3	71.0	62.5	5.6	6.9	9.0
8(2)	図1において、 $AB=AP$ 、 $OB=OP$ ならば $\angle AOB=\angle AOP$ であることを、三角形の合同を基にして証明する	筋道を立てて考え、証明することができるかをみる		○			63.2	57.2	46.1	11.5	15.2	22.2

【教科に関する調査から分かったこと】()は問題番号

○ 具体的な事象において、考察の対象となる角を的確に捉えること(問8(1))や、筋道を立てて考え、証明すること(問8(2))について、平均正答率は都・全国よりも高い。既習の知識及び技能を活用して数量やデータの特徴を捉える力は概ね身に付いていると考えられる。

△ 数学的に表現したことを事象に即して解釈し、問題解決の方法を数学的に説明すること(問7(2))は平均正答率は都・全国よりも高い。数学的な事象について見通しをもって考察したり、根拠を明確にして説明したりする力のより一層の育成が求められる。

【質問紙調査から分かったこと】

「数学の授業で、どのように考えたのかについて説明する活動をよく行っていましたか」について、肯定的な回答をしている生徒ほど平均正答率が高い傾向にある。

	市・生徒数の割合(%)	市・数学平均正答率(%)
当てはまる	24.3	74.0
どちらかといえば、当てはまる	38.7	67.3
どちらかといえば、当てはまらない	24.5	62.3
当てはまらない	12.0	51.4

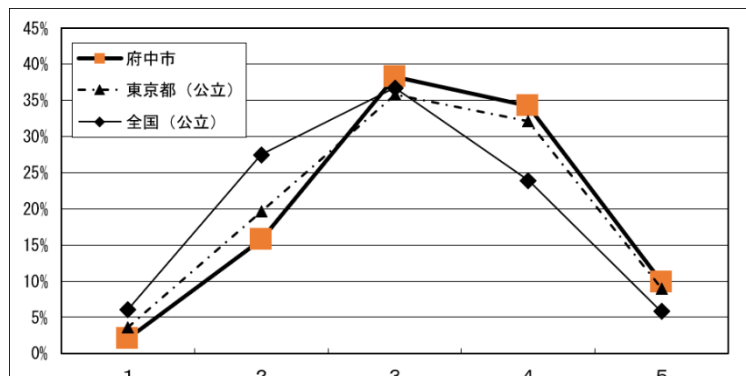
数学的に表現した内容を解釈し、問題解決の方法を筋道立てて説明する力を育成することが重要である。授業では、図や式、言葉を関連付けて考え、その根拠や過程を説明する活動を設定する。また、問題解決の過程を振り返り、よりよい方法を検討したり、条件を変えて新たな問題を見いだしたりする学習を通して、数学的に考え、表現する力の育成を図ることが重要である。

中学校英語

中学校 英語	平均 IRTスコア	標準偏差	4技能 5段階別IRTバンド別分布(%)				
			1	2	3	4	5
府中市	542	107.3	2.1	15.7	38.2	34.2	9.9
東京都	529	115.8	3.6	19.6	35.8	32.1	8.9
全国	499	113.7	6.1	27.5	36.7	23.9	5.8

R5中学校 英語	平均 正答率 (%)
府中市	55
東京都	52
全国	45.6

IRT バンド分布グラフ（横軸：IRT バンド 縦軸：生徒の割合）



「IRTスコア」とは、問題の難易度を考慮して算出された生徒の理解度を示す値であり、500を基準とする。

「IRTバンド」とは、算出された値を、一定の範囲ごとに区切って分類したものである。バンドが高いほど生徒の理解度は高い。

このIRTバンドの結果から、府中市は都・全国と比べて平均スコアが高く、標準偏差も比較的小さいことから、全体的に学力が高く、生徒間の学力差が小さいと考えられる。IRTバンド集計値も、特に上位層（バンド4・5）において優位性が見られる。

【主な設問別結果】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	学習指導要領の領域					正答率(%)			無解答率(%)		
			聞く	読む	話・やり取り	話・発表	書く	府中市	東京都	全国	府中市	東京都	全国
4	職場体験についての発表を聞き、その後に示される3枚の絵を体験した順になるように選択する	日常的な話題について、話を聞き、概要を捉えることができるかどうかをみる	○					<u>48.2</u>	49.6	43.8	0.7	0.4	0.3
10 (1)	インターネットの使用に関する文章を読み、書き手が最も伝えたいことを選択する	社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる		○				<u>59.1</u>	56.0	47.5	0.1	0.2	0.2
11 ①	与えられた情報に基づいて、留学生の昨日の出来事を説明する英文を書く	音声や語彙、表現、文法、言語の働きなどの知識、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けているかどうかをみる					○	<u>76.1</u>	68.6	58.9	0.9	1.9	2.5

【教科に関する調査から分かったこと】()は問題番号

○ 社会的な話題について、短い文章を読み、要点を捉え、考えとその理由を書くこと（問10(1)）や、音声や語彙などの知識を、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能を身に付けている（問11(1)）で、平均正答率は都・全国よりも高く、無回答率も低い。文章の構成や情報の関係を基に要点を読み取る力や、既習の語彙・表現・文法を活用して正確に表現する力は概ね身に付いていると考えられる。

△ 日常적인話題について、話を聞き、概要を捉えること（問4）の平均正答率は都よりも低く、・全国より高い。話の内容を部分的に聞き取るだけでなく、出来事の順序や場面の移り変わりを関連付けながら、話全体の流れを捉えることが重要である。

【質問紙調査から分かったこと】

「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」について、肯定的な回答をしている生徒ほど平均IRTスコアが高い傾向にある。

	市・生徒数の割合(%)	市・英語平均IRTスコア
当てはまる	63.0	558
どちらかといえば、当てはまる	26.7	517
どちらかといえば、当てはまらない	5.7	488
当てはまらない	4.2	468

日常적인話題や社会的な話題について、必要な情報を聞き取ったり読み取ったりするだけでなく、情報同士の関係や話の流れを整理しながら概要や要点を捉える力を育成することが重要である。授業では、場面の移り変わりや出来事の順序、話し手や書き手が最も伝えたいことに着目して内容を整理する活動を充実させる必要がある。